

授業案「冒険の道」による多様な動きの体験

川上暁子（武蔵野大学）

1. はじめに

本発表は、保育者養成課程で行った身体遊びの授業の実践をまとめたものである。保育者養成は国の指針に沿って、さらに社会的な要請に影響を受けて行われる。保育者として備えるべき力量を保育学生が培えるよう、授業の内容とねらいを設定していく。この実践発表のキーワードは多様な動きの体験であり、現在、保育・幼児教育を学ぶ学生は、養成課程に在るうちに、多様な身体の動きを含む身体を使った遊びの体験をするべきだと考えている。

2. 多様な動きの体験を重視する流れ

多様な動きについては、国が平成 20 年（2008 年）版の小学校以上のカリキュラムで述べ、学校教育の中で、子どもたちに授業を通して多様な動きの体験を促す必要性が言われるようになった。子どもたちの屋外での運動遊びの減少、運動習慣の二極化、体力・運動能力の低下などの懸念が背景としてある。その後、幼児期運動指針（文部科学省・2012 年）により、就学前の幼児期からの多様な動きの経験の重要性が示された。保育・幼児教育の三法令の改定（2017 年）でも「多様な動きを経験する中で…（略）」と新しく追記された。保育者として現場では、体験的に知った身体の動きや遊びから、現場の状況や環境、子どもたちの興味と関心に合わせて、遊びを発案したり展開させたりすることが望まれる。

このため保育学生は多様な動きを体験しておくことが求められる。身体を動かす遊びを作り出す力を培うことも必要だと考える。体験していることは教えられる。身をもって知れば、子どもたちの身体の動きを引き出すような活動を試みることも出来る。または子どもたちとの日常の中で、即興的に子どもの遊びが生まれるその時に、保育者に応答する力があるか。遊びは瞬間的な創意が試

される場である。

授業案を作る際に、筆者の専門領域である創作ダンスの授業手法を基調として考えた。様々な身体の動かし方の体験から、それらを基に動きを創り出す流れが有用であると考えたためである。

3. 授業案「冒険の道」

授業案「冒険の道」は、保育者養成課程のカリキュラムにおいて、専門科目の 1 つとして位置づけられる体育 1 という科目で実施した。内容は、スタート地点からゴール地点までに運動課題を行うものである。ただし、縄やフープ、ボール、マット・跳び箱などの障害物としての用具は一切使わない。一方が身体による形や動きで、障害物（例えばトンネル、丸太、門、岩など）を表し、もう一方がそれらを超える動き（くぐる、跳ぶ、押す、転がすなど）を行ってゴールへと進む。多様な運動の実践と発想につなげることを本授業の目的とした。

導入として、各人のウォーミングアップから、2 人組によるペアストレッチに移行し、2 人で行ういくつかの身体遊び（転がり鬼/くぐり遊び/足グーパー跳び/お巡りさん）を行なった後、4 人で行う身体遊び（馬跳び/丸太運び）を行なった。その後、「冒険の道」のルール説明があり、グループに分かれて身体の動きを考える活動へと移った。7 つのグループ（A～G）にて創作を行い、授業内で発表をした。

4. 考察

発表の際の映像から動きを書き起こし考察を行った。1 つのグループの成果を抜粋して、表：グループ D の「冒険の道」に記す。動きの体験の成果としては、導入で各人が 8 個の動きに取り組んだ。さらにグループ活動で 3～6 個の障害物の動きと応答する動きの組合せを発案していた。受講者は本授業の中で 11～14 個の動きを体験的に行った

ことになる。7グループ中のすべてのグループで転がる・くぐる・跳ぶという導入で行なった基本的な身体の動きを部分的に取り入れていたことが観察された。また、身体の動きとしては同じでも、グループによって障害物の名称が異なることがあり、動きにイメージが付随していたことが推察され、グループ代表者へのインタビューでそれが確認できた。例えば、同じくぐる動きでも、「門」「網」など。また、ストーリー性を持たせたグループがいくつかあり、「お城」や「お宝」がゴールとして身体の動きで表現された。また、「勇者」が登場すると勇者の乗り物も登場する、勇者が触れると障害物の動きが弱くなる(小さくなる)など、身体的な応答が見られた場面もあった。

5. おわりに

社会環境や生活様式の変化に起因して遊びが変化し、身体を動かして遊んだ経験が不足する、身体の動かし方がわからない子どもたちが、今後も増えていくことが予想される。多様な動きの体験を、幼児期に遊びを通して体験できるよう導くことは、保育者たちにとって、引き続き重要な課題である。2000年前後の生まれの保育学生たち自身も、実は、体を動かして遊んだ経験が不足する世代と言われる。養成課程のうちに、子どもとの活動を想定して自分自身の身体で遊び直し、多様な動きを体験しておいてほしい。今後も、保育者養成課程における身体を動かす授業の方向性を見定め、実践的に取り組んでいきたい。

参考文献

- 文部科学省(1998)小学校学習指導要領.
 文部科学省(2008)小学校学習指導要領.
 文部科学省(2012)幼児期運動指針.
 文部科学省(2017)幼稚園教育要領.
 厚生労働省(2017)保育所保育指針.
 内閣府・文部科学省・厚生労働省(2017)幼保連携型認定こども園教育保育要領.
 文部科学省(2017)小学校学習指導要領.

表：グループDの「冒険の道」

障害物または登場物	身体の動き
①みみず	腹臥位で腰を左右にうねらす。うねりが弱まったタイミングで跳び越える。
②トンネル	両手を前で輪の状態にして身体を低める。その輪をくぐる。
③いかだ	近接して背臥位の状態から数名が床を転がることで、その上に身体を横たえ転がり進む。
④かに	かにのポーズで左右に動く。その股の間をくぐる。
⑤わかめ	立位で両手をゆらゆらと前で動かす。その手に当たらないように進む。
⑥宝	長座で前屈姿勢から、繋いだ手を上に挙げながら身体を起こす。動きに併せて効果音付き。